

翔陽高校の生徒の皆さんへ ー校長メッセージ（22）（3月21日）

「自分を見つける旅に出かけよう！」

校長 博田 英明

生徒の皆さん、おはようございます。校長の博田です。3月8日（土）に挙行了した卒業式は、大変心に残る式となりました。229名の卒業生は、この3年間の高校生活を思い返し、未来を見据え、周囲の人たちに感謝しながら、翔陽高校という学び舎から旅立っていきました。

「旅立つ」というと、翔陽高校では「社会に貢献し国際社会で活躍できる人材を育成する」という教育目標の実現のため、海外修学旅行を毎年実施しています。この1月も2年次生が台湾へ修学旅行に行き、貴重な体験をしてきたばかりです。また明日からは本校で初の実施となる海外研修旅行としてオーストラリアのケアンズに21名の生徒が旅立ちます。このように皆さんが在学中に外国を訪れたり、海外の高校生を受け入れる機会も多い本校ですので、今日の修了式では改めて、「旅」について話をしたいと考えています。

さて、ここでクイズです。3,687万人。これは何を表す数字でしょうか？ 勤のいい人はすぐにピンと来たことでしょうか。そう、この数字は昨年2024年の1年間に、観光などで日本を訪れた外国からのお客様、いわゆるインバウンドの総数です。単純計算で1日に約10万人が日本を訪れたこととなります。消費額は約8兆1400億円で、観光客数、消費額とも年間の過去最高を更新しました。ちなみに同じ2024年のインバウンド旅行者が世界一の国はフランスで約1億人、2位はスペインの約9400万人で、こちらも過去最高でした。

皆さんは人がなぜ「旅」をするのか考えたことがありますか？ 立教大学教授で観光心理学がご専門の前田勇（いさむ）先生の話によると、「旅をする人」に共通して見られる心理的な特徴は、「緊張感」と「解放感」という相反する感覚が同時に高まることだそうです。人は日常生活を離れた、よく知らない土地では不安感が強まりやすく、外部環境の変化にすぐに対応できるように「緊張感」が高まります。同時に人は日常生活から離れることによって様々な煩わしさを一時的にせよ忘れることができるため、気楽さを感じて「解放感」を覚えます。皆さんも何となく実感として理解できるのではないのでしょうか？

私が注目したいのは、その理由や目的を問わず、旅をすることは日常生活から一時的に離れて「自分を見直す」という意味を共通して持っていることです。いつもとは違った環境での自然や文化あるいは人々との出会いは、自分自身の確認と発見の新たな機会をつくってくれます。特に「美しい」「楽しい」「美味しい」などの感情は、人間をより豊かな世界へと導く作用を持っています。知識面だけではなく精神面でも人を成長させてくれる機会として旅を利用することが大切です。皆さんもこれまで、家族旅行や遠足、修学旅行などの旅で体験した「学び」や「忘れられない思い出」があるのではないのでしょうか？

私は自分の自転車を電車や新幹線に積み込んで、全国各地をサイクリングして回る旅が好きで、最近も瀬戸内海のしまなみ海道や琵琶湖一周、霞ヶ浦一周、佐渡ヶ島などに出かけて長距離自転車ツーリング旅をしてきました。旅は自分自身をよく知る機会にもなります。旅をしている時の方が、素（す）の自分が出てくる感じがします。予期せぬことが起こった時に自分のメンタルの弱さを見せつけられることもありますし、逆に乗り越えられる強さを感じられる時もあります。そういった発見がとても楽しいです。また目的地まで自転車で完走できた達成感などは、何物にも変え難い喜びがあります。さらに、旅をすることによって、逆に「自分の家っていいな」ということも再認識したりします。

4月から新しい年次に進む皆さんには、ほかの学校より少し長い春休み期間がある本校のメリットを生かして、「自分を見つける」旅に出かけてみることをお勧めしたいと思います。この春休み、それほどお金をかけなくても構いませんので、いつもは行く機会がない東京近辺の山や川、海や湖などに出かけてみるのはいかがでしょうか。一人でもいいし、家族や友人との旅もいいと思います。誰かと一緒に行くことで、時間や経験や気持ちを共有し合える喜びや楽しさが生まれます。もちろん、一人旅の良さもあります。絶景を独り占めできたり、現地の人たちや美味しい食べ物に出会えて、日頃の悩みなども吹っ飛ばすかもしれません。

翔陽高校のある高尾には、皆さんご存じのとおり、登山者が年間 300 万人で世界一の高尾山があります。観光客の多さは地域を元気にしてくれますが、同時に自然環境や人びとの生活環境にも影響をもたらします。消費対象としての観光地でなく、地域の価値を持続し、観光地としての魅力を保ち続けることが求められます。皆さんは「オーバーツーリズム」という課題についても考えたことがあると思います。これからは持続可能な観光、つまりSDGsの観点や、観光地の人たちだけではなく、観光客も共に責任を担う responsible tourism（レスポンシブル・ツーリズム）を実践することが大切になってくるでしょう。

最後にもう一つクイズです。一般的に楽しみを目的とする旅行のことを「観光」と言いますが、なぜ観光というのでしょうか？ この言葉の語源は、中国の古典である四書五経の一つ「易経」（えききょう）にある一文、「国の光を観（み）る」とされています。それは、「国の文化、政治、風俗をよく観察すること」という意味で、本来は国際的なもののみを指していたそうです。外国の美点や文化を知ることとは自分の国にも、また自分自身にも役立つという考え方ですね。

今日は「自分を見つける」機会となる旅についてお話ししました。今までと違った自分と出会うプチ旅行によって、ちょっと表情が変化した皆さんと出会う新学期を期待して、私の話を終わります。